

1. シラバス

授業科目名	中等家庭科教育法Ⅰ	単位数	2
開講年次	2年	学期	前学期
担当教員	鈴木 真由子		
科目分類	教職科目（教職に関する科目）		
選択／必修	必修	授業形態	講義・演習
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭科教育の歴史や背景にある学問との関連を理解し、教科のアイデンティティを把握する ・教科の全体像を、総合的・体系的に捉える ・グループ発表により、基本的な学習形態や指導方法の概要を把握する ・ミニテストの作成により、要点を押さえた授業を展開することの意義を理解する ・ミニテストの実施により、相互評価・自己評価の意義を理解する 		
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 家庭科の背景にある学問：家政学 <ol style="list-style-type: none"> 1) 家政学の歴史的系譜（担当教員による講義2回） 2) 家政学の定義と知識体系（これ以降はグループ発表形式） 3) 日本における家政学の動向 3. 家庭科教育の歴史的変遷 <ol style="list-style-type: none"> 1) 明治期までの家庭科教育 2) 大正から昭和前期（戦前）までの家庭科教育 3) 戦後の家庭科教育（前半） 4) 高度経済成長期における家庭科教育 5) 男女共修・共学時代の家庭科教育 4. 実地指導講師による授業：家庭科教育の今とこれから 5. 授業の総括 		
テキスト	テキストの指定は行わない。		
参考文献	(社)日本家政学会家政学原論部会監修『家政学 未来への挑戦』建帛社(2001) 家政学原論部会発行『家政学原論研究』各年 その他、家庭科教育の歴史に関わる文献各種		
評価方法・基準	グループ発表の内容・方法・配布資料（30%） ミニテストの作成・実施・評価・授業の省察（30%） 授業後のミニレポート（20%） 授業の総括レポート（20%）		

注：本報告のシラバス及び授業実践の結果は、著者が新潟大学在職中に構想・実施したものであり、当時の学部名称で表記している。現在の当該大学教育学部における同名の授業とは無関係である。

2. 授業の特徴や授業を行うにあたっての工夫：学生に対するアドバイス

- ① 中等家庭科教育法Ⅰ～Ⅳは、2年前期から3年後期までの2年間、各2単位・計8単位の履修を想定しています。中学校の教員免許（家庭1種）習得のためには、すべて必修扱いとなります。高等学校の教員免許（家庭1種）習得のためには、Ⅱ・Ⅲが必修ですが、Ⅰ・Ⅳの選択科目も是非履修して下さい。

特にⅠは、家庭科という教科の持つアイデンティティをテーマにしています。皆さんが家庭科の教員を目指すにあたり、求められる“教科観”の基礎になるものです。家庭科の背景にある学問（家政学・生活科学）とは何か、皆さん自身で調べ、考え、伝えることを通して、理解して下さい。

- ② 学習方法の特徴は、グループ発表形式をとることにあります。20人以下の少人数クラスの利点を活かして、2～3人のグループで協力して学習を進めて下さい。基本的な文献をいくつか紹介しますので、それをもとにして、グループ単位で学習テーマについて調べ、内容を整理します。

発表は、それぞれのグループで工夫して下さい。原則は「大学生に対する授業」です。教える側の立場で、大学生にわかりやすい授業の方法を考えましょう。ヒントになる学習方法については、参考になる資料や文献を紹介する予定です。

- ③ ガイダンス後の2回は、担当教員が授業をします。レジュメの作り方、配布する資料等、グループ発表の参考にして下さい。

グループ発表（＝授業）の後には、ミニテストを実施して理解度を確認してもらいます。授業は50分程度とし、ミニテストは10～15分で解答できるものを発表者が考えて下さい。発表したグループは、採点もそれぞれの責任で実施してもらいます。記述式の問題であれば、評価の基準も考える必要があります。

- ④ グループ発表の担当者以外の皆さんは、学習者として授業の評価をして下さい。評価項目は、「内容」と「方法」です。「内容」について、何がわかったか、わからなかったか、「方法」について何がよかったか、よくなかったか、その他気づいたことをたくさんコメントして下さい。質問があれば、書いて下さい

発表者は、相互評価の結果も参照して、自分たちグループの授業について省察して下さい。ミニテストの結果も重要な手掛かりです。伝えなかった内容がちゃんと伝わったのか、伝わらなかったとしたらどこに原因があるのか、グループで話し合ってみましょう。質問については、回答を準備しましょう。

翌週の授業の冒頭で、担当教員が前週の授業について補足します。また、前週の質問については責任を持って回答して下さい。

■授業に関する質問はいつでも受け付けますので、研究室まで来て下さい！